

- 大課題名：(新) 果樹園の土壤管理等による果実安定生産技術の確立 (H30～34)
 小課題名：(新) 1 生理障害発生園の土壤環境実態把握 (H30～32) (重点化)
 小課題名：(新) 2 土壤管理等による果実生理障害の発生抑制 (H32～34) (重点化)
 小課題名：(新) 3 モモ・ブドウの環境変動に対応した効率的施肥技術の確立 (委託)

背景とねらい

・近年、温暖化の影響と考えられる集中豪雨や猛暑等の発生頻度の高まりや土壤環境の悪化により果樹の生理障害の多発が懸念されている。

・中でも、モモ栽培では核割れ、ブドウ栽培では裂果の発生が目立ち、果実品質や収量の低下が問題となっている。

・これらの生理障害の発生要因は、品種特性や栽培面に加え、土壤養水分の急激な変動など土壤面の影響も大きいと考えられる。

・そこで、本研究では果実の安定生産を図るため、土壤水分や養分等が生理障害に及ぼす影響を明らかにし、有機物資材、耕起などを活用した土壤管理面からの果実生理障害の軽減技術を確立する。

【課題の要請元】

峡東農務事務所、部門別農業代表者、全農やまなし

試験内容

1. 生理障害発生園の土壤環境実態把握 (H30～32 重点化)

障害発生園の土壤水分や養分、樹体生育などを調査し、生理障害に及ぼす土壤環境の実態を把握する。
 対象とする生理障害：モモ核割れ、ブドウ裂果
 調査項目：土壤管理方法、施肥管理方法、土壤硬度、土壤透水性、土壤養分等

2. 土壤管理等による果実生理障害の発生抑制 (H32～34 重点化)

実態把握より明らかとなった生理障害に及ぼす土壤環境の要因に対し、有機物資材や耕起などの活用等により、生理障害を軽減できる方法を解明する。
 検討事項：有機物資材、土壤改良資材・方法、耕起方法、混合堆肥複合肥料※等
 調査項目：樹体生育、根の生育、果実品質、障害発生程度、土壤水分、土壤養分等

※混合堆肥複合肥料
 堆肥と化学肥料を混合した双方の利点(土づくり効果と肥料効果)を併せ持つ肥料(成分保証あり)

3. モモ・ブドウの環境変動に対応した効率的施肥技術の確立 (H30～H32 委託)

温暖化に対応可能な施肥時期や施肥量が果実生産に及ぼす影響を解析し、より効率的な施肥方法を確立する。

期待される効果

・土壤管理面から、果実の生理障害を軽減する技術の確立が図られる。

・果樹に適した土壤環境を保つことにより、気象変動下においても安定生産可能な足腰の強い果樹栽培が可能になる。

栽培面積 (H27)
 ブドウ 4, 130ha
 モモ 3, 460ha

出荷量 (H26～28 の平均)
 モモ 19, 723t
 ブドウ 18, 012t

【行政施策上の位置づけ】

新・やまなし農業大綱 第 5 章 7-(2)-①

「温暖化に対応した新品目・品種、栽培技術の開発」